

## 令和3年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	児童・生徒の実態やニーズに応じた教育内容を、小学部から高等部まで系統的に再編成し、教育課程の改善を図る。	① 学習指導要領に沿った授業・単元の改善を図り、各学部でのカリキュラムマネジメントを推進する。 ② 身につけさせたい力及び学習内容を段階的にまとめるとともに、個々の指導の継続性を高める。	① 単元配列表・単元振り返りシート等をもとに教科横断的視点で授業・単元の改善を行う。 ② 教育課程についての研修会を実施し、校内研究の取組みに活かす。	① 年間指導計画や単元配列表を中間で見直し、日々の授業・学習単元を改善できたか。 ② 外部からの助言を活かし、研究内容等をまとめるとともに、系統性のある授業が展開できたか。
2	児童・生徒 指導・支援	主体的に生きる児童・生徒を目指し、一人ひとりに応じたきめ細かい指導・支援を組織的に行う。	① 実効性ある個別教育計画をもとに、より主体的に学習に取り組めるようにする。 ② 児童・生徒理解のため話し合いを常に行い、見立てる力(アセスメントの力)をつける。	① 個別教育計画を本人・保護者を含め、チームで実施・評価し、見直す。また、ICT機器の有効活用を促進する。 ② 客観的アセスメントを実施し、その結果を共有し個別教育計画の策定及び教育実践に活かす。	① 共通の視点を持ち個別教育計画が計画・実践できたか。ICT機器の活用が向上できたか。 ② 各種アセスメントを実施し、その結果を教育実践に結びつけられたか。
3	進路指導 ・ 支援	児童・生徒が地域で豊かに生きていくために、本人及び保護者のニーズに応じたキャリア教育を行う。	① 児童・生徒の教育的ニーズを的確に把握し、成功体験にもとづくキャリア教育を実践する。 ② 児童・生徒や保護者に対して、将来の生活をイメージできるよう地域との連携を図りながら情報発信を行う。	① ライフキャリアにつながる指導目標を、各学部で年間2つ程度設定し指導実践する。 ② 学校運営協議会の切れ目ない支援部会を活用し、進路タウンミーティングを開催する。また、ホームページ等を活用し情報発信する。	① 目標に沿った指導実践により、ライフキャリアにつながる児童・生徒の力に変化が見られたか。 ② 児童・生徒や保護者に対して、卒業後の生活に関する情報が十分に発信できたか。
4	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域との相互資源活用や理解推進に取り組む。インクルーシブ教育実践推進校と連携し、支援・推進する。	① 「開かれた教育課程」を意識し校内外の資源を相互に活用した学習を展開し、相互の理解推進を図る。 ② センターの機能を発揮し、地域との連携を深め、インクルーシブ教育の推進を図る。	① 感染症対策を踏まえ、学部の目標・実態に応じ、校外での体験・協働活動等を実践するとともに、ホームページで発信する。 ② インクルーシブ教育に関する研修会を開催し、現状と今後の取組みについて理解を深める。また、より多くの教員が地域と関わる。	① 外部の資源を活用した校内外での活動を様々な方法で展開し、本校の取組をわかりやすく発信できたか。 ② 研修会等を通じて、教員がインクルーシブ教育についての理解を深め、その推進の手立てを考え実践できたか。
5	学校管理 学校運営	安心・安全な学校であるための体制の整備を進める。働き方改革を進めるとともに、人権を大切に「支え合い・学び合い」の職場づくりを推進する。	① 情報伝達手段やマニュアル等を整備し、効率的で実効性のある業務遂行を行う。 ② 児童・生徒の思いに寄り添うとともに、人との対話を重視した教育活動を実践する。	① ICT環境を整備し、業務の効率化を促進する。また、児童・生徒にアカウントを発行し、保護者が使い方を理解し活用できるようにする。 ② 人権を大切にする表現の一つとして「さん」付けで呼び合うことを推進する。	① 全職員がICT機器を有効活用できたか。また、保護者と学校との双方向通信が90%できるようになったか。 ② 「さん」付けで呼び合うことを意識し、実施できたか。